

紹介

Comparison of Report of the
"Denver" Chair Test: A critical
Examination of the Methods of W.
H.C. Tenhaeff

by Riet Hein Hoebens

大谷 栄司

Gerard Croiset は世界で最も優秀な Sensitive と言われ、"Dutchman with the X-ray Mind" とも異名されて有名である。彼は世界中の警察に協力し成功し、彼のすぐれた予知能力は科学的にも吟味されたと広く信用されている。しかし、彼の能力の真偽に対し論争も続けられている。警察の权威者の中にも批判的な者が居り、彼の客観的に示したといわれる唯一の実験的試みの * Chair test に対しても批判が行われている。本論文は、Croiset が被験者となり最も成功したと言われる遠距離 Chair test に対する批判を試みたものである。

Croiset の能力についての研究はオランダの超心理学者 Dr. W.H.C. Tenhaeff に、2 長年行われてきた。Dr. Tenhaeff は 1953 年より最近まで Parapsychology Institute, Univ. of Utrecht の director である。ヨーロッパにおける超心理学の重鎮である。Tenhaeff は 1947 年以來 Croiset について Chair test を多数回行っている。ここに批判しようとするのは、1969 年 1 月、オランダと米国との間に行われた遠距離 Chair test であり、オランダの研究者は Tenhaeff、米国側は Dr. Eisenbud であった。

1 月 6 日、Croiset は 23 リーズの Chair tests を行った。これは同月 23 日夕刻、米口 Denver, Colorado. で開かれた集會に参加した人びとへの特定の椅子に坐る人についての情報を予め当てようとする試みであった。結果は Tenhaeff により雑誌や単行本に、また Eisenbud により Journal of ASPR に報告されている。本論文はこの両者の報告を比較検討しこの実験の条件の不適切さ及び報告の食い違いを指摘しようとするものである。以下箇条書きに両報告の違いについて述べる。

1. Croiset が target person について述べた陳述の item の数

target person は 2 人選ばれた。これは、予め予定した数の椅子に番号を振り、当日集った人から番号札をとり、random を任意で選ばれた椅子と同じ番号を持った人を選ぶものである。Croiset はこれらの人について予め彼等がどんな特徴をもたえているかを述べたのである。

その陳述の数は、Tenhaeff によると全部で 21 というが Eisenbud の報告ではそれよりも 9 つ多い。しかもこれらは適中してはなかった。

2. target person の Croiset の陳述に対する評価の変更があった。

参加者には全員 Croiset の陳述が与えられ、それを自分自身に当てはまるか否かを判定することと依頼された。またそれを変更することも許されていた。しかし target person は評価を大きく変えた。第 1 の人は総点 16 から 31 に、第 2 の人は 15 から 35 に増加した。これは彼等が target person である可能性を知り(当日の終りにそれらが知らされた)適中されることに強い motivation を持ったためではないか。

3. 64 頁

Croiset は target person は最近読んだ本の 64 頁に関して強い感情を経験したことがあると述べた。これに対し target person は最近否定したが帰宅後変更し適中とした。これも motivation に関係あることではないか。またこの様な事柄は筆者自身について考えてみても当てはまることがある。下審に反指すれば誰しも当てはまるものが見つかるのではないか。また Tenhaeff の報告で target person の述べたことが Croiset の陳述であるとするかわったと思われる所がある。

4. 押しつけたのかぶつめたのか

Croiset は target person は鼻をガラスに強く押しつけたことがあると言った。target

Personは強くぶつけたことがあると返答し適中とした。しかし押しつけるとぶつけるとは異なるのではなからうか。

5. 足指の傷

Croisetはtarget personは足の親指に傷跡があると言っているが、この人は足指の爪に異常があった。そのため靴の先に金をはめて保護していらした。Tenhaeffの報告ではCroisetがこの事について言及したと述べている。

6. 靴下の穴

target personは緑色の靴下でその一方に穴があいているとCroisetは言った。target personは最初このことを否定し、あとでそうであったと訂正している。

7. 誰がtarget personなのか

この実験でのtarget personはMrs. OlingerとMr. Twickという人であると述べられているが、実際はその決定もあまりな裏がある。それは、番号札がはじめ予定したより1枚多く作られてしまっている。これはTenhaeffの指定の仕方が適切でなかったためであるが、そのため、どの札も実際の場合に除くがらつては、正しい根拠もなしにその操作をしてみた。そのためこの2人がtarget personであるというこの根拠も明瞭ではない。

この様に2人の報告者の報告の食い違い、更に実験条件に欠点をもっている実験であった。Eisenbudはこれは言葉の困難さが原因しているのかもしれないと述べているが、筆者はCroisetについての報告は、これまでほとんどTenhaeffのものが唯一であったが、今回は他の独立の報告者が別の発表をしているという裏が重要なケースであると述べ最後にDr. Zorabの「Tenhaeffの金山には少くとも微量の卑金属が含まれている」という言葉が重みを加えると感ずると述べている。

Mr. Hoebensはオランダのおける有名新聞の記者である。大会は昨年第23回P.A. Conventionの序りにアムステルダムで彼に会い、Croisetの日本での実験に関して意見を交換した。

Abstract

Research in Parapsychology 1979
Abstracts and Papers from the 22nd
Annual Convention of the P.A., 1979

第22回P.A. 年次大会は1979年8月15-18日の間St. Mary's College, Moraga, Californiaにおいて行われた。この大会はJohn F. Kennedy Univ.の支援を得て行われた260名の出席者があった。17の論文、22の小論文が発表され、3つのシンポジウム、3つの円卓会議が開かれた。発表題は下記の様であった。

Symposia

Psi and Scientific Method: Views from Diverse Perspectives

On the Genesis of Research Hypotheses in Parapsychology. by R.A. White

Science and Parapsychology: An Ideological Revolution. by M. Winkelmann
Using the Scientific Method to Probe the Limits of Science. by J. Beloff.

Psi, Methodology and the Social Context. by E.R. Gruber.

Methodological Perspectives on Psi Research

Paranormal Group Dynamics. by Crosso.

Using Altered States of Consciousness to Facilitate or Study Psi. by C.T. Tart.

Imagery, Resonance and Psychic Healing. by R.G. Locke.

Are we Shamans or Scientists. by R.G. Stanford.

Are Psi Occurrences Random? by T.N.E. Greville

A Case of Haunting. by W.G. Roll.

(以下の論文は次号No.31にのせる予定です。)